

根来山げんきの森倶楽部

令和5年4月作業日誌

活動日：令和5年4月16日(日) 9:30～15:30 天気：晴れ 倶楽部員：46人

春爛漫の季節を迎え、げんきの森は植物も動物も元気いっぱい。今月の活動はは里山整備体験講座もあり、総勢46人の倶楽部員が清々しい汗を流しました。トラブルにも臨機応変に対応したり、次に生かしたりと、森は常に新しい学びを教えてくれるようです。

うるし谷整備

苗木が大きく育つように...

前日の雨も上がり作業日和の天気になりました。午前6名午後3名での作業です。

こぶし川の下流では植樹した苗木をイノシシが掘りかえすので、玉切りにしていただいていた太い幹を川沿いに横に並べ、杭を打って固定して防護柵代わりにしました。イノシシが気づいて遠慮してくれればうれしいと期待して頑張りました。

さらに下流にYさんがコツコツと整備していただいている護岸を少し延伸する工事を行いました。杭を打ち、横木を並べ、裏込めにはコンテナに集めていただいていた石などを使ってせせらぎが聞こえる清流の風情を持つ「こぶし川」になってきました。

午後からはうるし谷の点検を行い、うるしの苗木の生育を確認しました。ただ、藤の花が少なくなっていて少しさびしく感じました。Hさんもうるしの苗を育てておられるとのことで、植樹のスペースを拡げました。

こぶし川の上流のシシおどしの対岸で、大きなクスなどを伐って日当たりがよくなった斜面の雑木を整備して新しいうるしゾーンを開拓しました。植樹できる日が楽しみです。

昨年可愛い花をつけた「おおやまれんげ」には今年も10ほどの花芽がついているのを確認して午後の作業をおえました。日々整備をいただいている皆様に感謝です。

今日もお疲れ様でした。 (西原充幸)



4月の定例作業日、休日出勤が多い職場のため3か月ぶりの参加です。ちょうど昨今の今頃に大谷川に橋を架けましたが、今日はその向こう岸に渡りタンコロ用の杉の伐採をします。昨日の雨で橋の表面が濡れてまだ乾いておらず、スパイク靴でも滑ります。

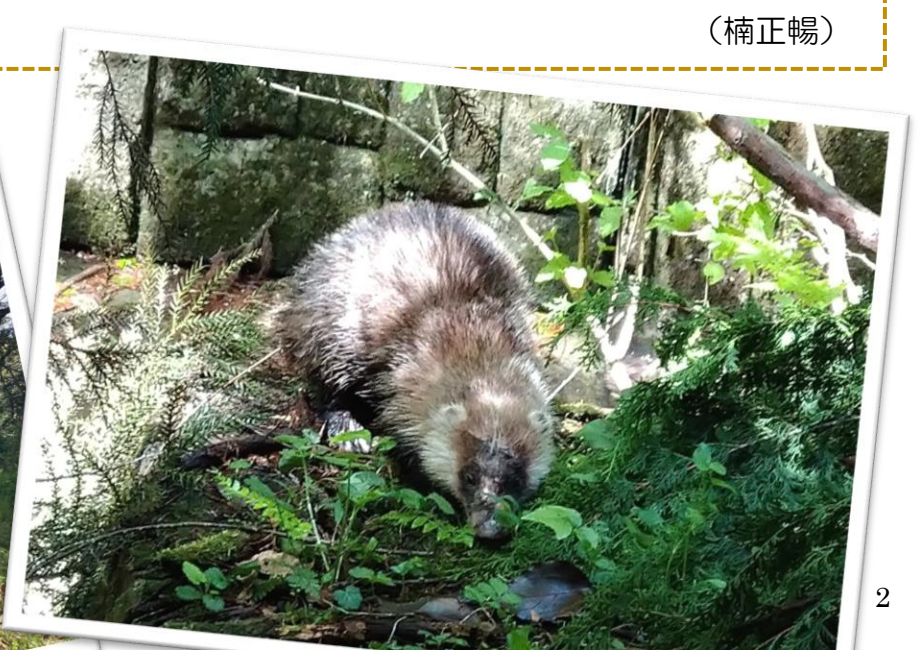
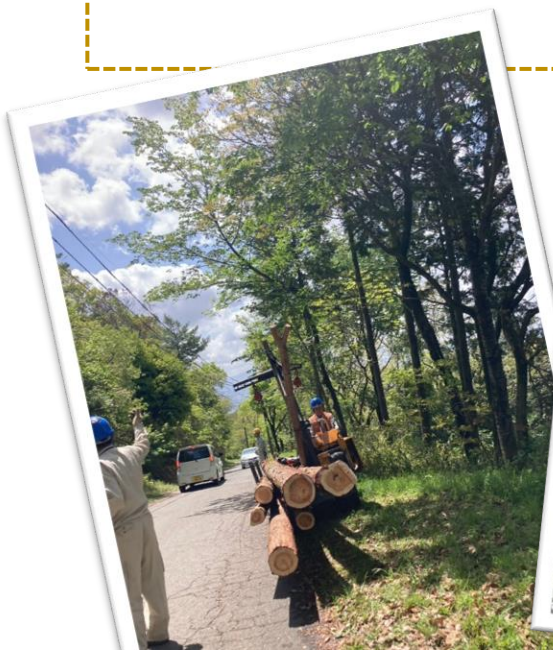
まずは安全のための手すりとなるロープを渡すところから始まります。十数人での作業でしたが、チェーンソーで伐採する組、木を運び出す組、倒した木の枝を手鋸や鉋で掃う組など、何組かに分かれての作業です。チェーンソーの爆音に負けないくらいの大声で、互いに安全確認する声かけが山に響きます。何日か前にすでにHさんが倒してくださっている桧もついでに運び出します。こちらは柱や路肩の土留め用として使用するためのものですので、結構な長さ（5～6m）で運びます。斜面を降ろすのに勢いよく滑り落ちないように、上の端にロープを括り別の木に掛け、下の端に掛けたロープを引っ張り、3人で息を合わせて少しずつ引きずり降ろします。川縁まで来たら、木の両端のロープで吊って、橋の上を2人で少しずつ摺りながら渡ります。その時はすでに橋も乾き滑りにくくなっていましたが、木2本分の幅しかないので、ここでも声を掛け合いつつ恐る恐る慎重に渡ります。



昼休憩が近づいたころ、チェーンソーのガイドバーが木の切断面に噛んで歪んでしまったそうで、持ち主のH隊長は食事に向かう足取りが重そうに見えました。読み切れない力が木に掛かっていることもあり得るわけで、ベテランの方でも避けられないトラブルもあるのですね。素人の私はといえば、以前とんでもない方向に木を倒してしまった反省から今日は力仕事に徹していましたが、それに気づいてか、大谷新池脇に停めた軽トラまでの道すがら“失敗を恐れず数をこなして経験を積むことの大切さ”をHさんが話してくれました。軽トラの荷台に何人か乗り合いでの管理棟までの時間は、Sさんの武勇伝(?)に花が咲きました。作業中の数々の怪我を笑って話す姿を見て、人工骨を入れてまでもボランティアを続けている“森を愛する気持ち”に感動してしまいました。また、その怪我の現場に立ち会わせたといいAさん曰く、「だから頻りに声かけすることが大事なんですわ」とのこと。“本日のまとめの一言”をいただきました。

おまけの話ですが、現場までの道すがらアナグマとご対面しました。ちょっと小さいやつですが、“♪森のくまさん”がぴったりのシチュエーションです。「逃げないんですね」とカメラを向けると、「まだ子供だから目が見えてないかも」とAさんのコメント。いろいろ勉強になります！

(楠正暢)



今回は前日までの雨が上がり、洗われたような新緑の中での炭出し作業となりました。

前々回、前回と炭焼きが難航し、原因はどうやら煙突の内側に溜まったタールにあるのではないかとの結論で、そうなると炭焼き班の**工作部(?)**の出番です。

Hさん、Suさん、Saさんの三人で新しい煙突に付け替えて下さいました。自分たちで工夫して修理をする、その姿には、いつも頭が下がります。本当にすごい！！

次回からはより良い炭が焼けそうですね。今回の炭の収量は260kgでした。

ご参加の皆様、お疲れ様でした。

(森 留津)



里山整備体験講座



先日、管理棟と体験棟に架けてた巣箱からシジュウカラのヒナが相次いで巣立ちました。げんきの森でこのタイプの巣箱を利用するのはシジュウカラとヤマガラだけで、シジュウカラはヤマガラよりも巣立ちが早いそうです。でも、彼らは調子がよければ3回ほど子育てをします。

この季節はメジロ、ホオジロ、コゲラなどの留鳥もそろそろ子育てを始めている頃でしょうし、オオルリ、キビタキ、サンコウチョウなどの夏鳥はそろそろメスも渡ってきて巣をかける場所探しでもしているでしょう。

過去2年はヒナたちのエサとなる芋虫が少なくて子育ても大変な様子でしたが、今年はけっこう芋虫の発生も多いようで、げんきの森でもたくさんの野鳥のヒナが飛び回るはずですよ。

楽しい季節になってきました。(岡田 和久)